

# 生徒の多様性を認め合い自尊感情を育む教育実践の研究（要旨） —心理教育と特別支援教育の視点から—

発達臨床支援高度化コース 17AD107 山本裕美子

【指導教員】 澤崎俊之 長江清和 馬場久志  
【キーワード】 自尊感情 アサーション 自他理解 校内研修

## 1. はじめに

複雑で変化の激しいグローバル化の進展と共に、多様な価値観を有する社会の中で生きていく子どもたちにとって、心を育て、豊かな人間関係を築き、「生きる力」を育むことは、今後ますます重要であると考えられる。しかし、学校現場には、不登校・いじめ・非行・自殺など早急に解決すべき課題が多く、様々な困難や悩みを抱え苦しんでいる子どもたちは年々増加している。これからの社会を生き抜いていくためには、子どもたちが自分の良さに気づき、自信をもち、他者と積極的にかかわって豊かな人間関係を築いていく力を身につけていけるよう、自尊感情を高めていくことが重要であると考えられる。

## 2. 研究対象校の実態

平成29年度、研究対象校の生徒（1年生101名、2年生135名、3年生114名の350名）に社会性アンケートを実施した。その結果、「自尊感情」の項目が他の項目より際立って低かった。また、OKグラムの結果、生徒には「自他否定」の傾向があった。教員アンケートからも、生徒の実態として「相手の気持ちを理解できない」「不安や自分に対する諦めや劣等感、無力感などネガティブな感情を持っている」「友人関係をうまく築けない」が多く挙げられた。これらの結果は、対象校の課題である不登校や相談室登校の増加、特別支援を必要とする生徒の増加と関係があるのではないかと考えられる。生徒の自尊感情を高めていくために必要な取り組みや正しい生徒理解、生徒指導、適切な支援について考える必要がある。

## 3. 研究の目的と仮説

本研究では、近藤卓（2003）の自尊感情尺度を用い、基本的自尊感情と社会的自尊感情のバランスの取れたSB型の自尊感情を育むことを目的とし、教育実践を行い、その効果について検証していく。仮説として（1）「自分も相手も大切する（平木 2015）」アサーションの実践によって、自己理解・自己受容ができ、自尊感情が育つ。（2）自己受容することが、他者受容につながり、自他共に認め合える集団づくりが出来る。（3）生徒一人一人の特性や教育的ニーズを把握し、適切な指導・支援を教員が十分に行うことで、生徒の自尊感情を育てることができる。という以上3点を立て、研究を進めていく。

## 4. 研究計画

平成30年5月から11月の間、生徒対象にアサーショントレーニング（表1）を、教員対象に心理教育や特別支援教育について校内研修（表2）を全6回行った。ま

た、4月と12月に、社会性アンケートとSOBAセットアンケートを実施し、効果を検証した。各回のアサーションの授業実施後、生徒には自由記述による振り返りを行い、担任教師には授業を実施した感想の記入を行った。

## 5. 研究の実際

1回	私の4面鏡・ジョハリの窓
2回	二者択一・20答法
3回	鏡の二人・割り箸ワーク
4回	天使の聴き方・悪魔の聴き方
5回	3つの話し方
6回	アサーティブな表現

表1：心理教育からのアプローチ（アサーション）

1回	今年度の研究について（アサーション）
2回	構成的グループエンカウンター
3回	発達障害について（特別支援教育）
4回	ハイパーQU・SOBAセット
5回	DESC法（アサーション）
6回	WISC-IV・ケース会議

表2：特別支援教育からのアプローチ（校内研修）

## 6. 効果の検証

（1）SOBAセットの結果から、SB型の人数が増加した学級は11学級中3学級のみで十分な結果は得られなかった。しかし、社会性アンケートの結果からは、昨年12月と今年4月を比較すると、アサーションと自尊感情の項目の数値が減少していたが、4月と12月では、数値の増加がみられた。一般的に学年が上がるにつれて自尊感情は低下すると言われているが、今回の結果から、アサーションの授業実践が自尊感情の低下をくい止めた可能性が示唆された。（2）教員や生徒からは、「楽しみながら学び、他者と関わり合えた」「自分を知り、他者との違いを知る機会になった」等の前向きな意見が挙げられた。

## 7. 成果と今後の課題

学校全体で研究に取り組んだことで、多くの先生方が「アサーション」と「特別支援」という2つのキーワードを意識し、日々の教育活動に取り組むことができた。また、生徒自身にも「アサーション」を周知することができた。今後の課題として、生徒の発達や学級の実態に合わせた内容や実施時期の検討、実践の明確な目的の共有やアンケート結果の適切な活用が挙げられる。来年度は、1年生の自尊感情を育てるための研究を行い、次年度への効果や不登校予防につなげていきたい。